

第9回 堀川一斉調査

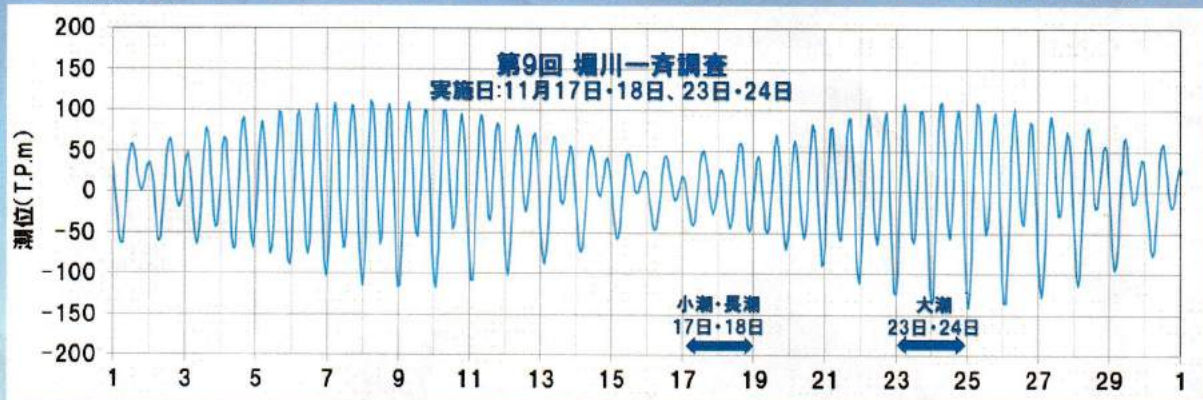
市民の視点と感覚で
試験運航による堀川の変化を調べる

調査期間：平成30年11月17日(土)、18日(日)
(予定) 23日(金)、24日(土)

試験運航区間：朝日橋～納屋橋～宮の渡し

2018年11月 調査期間の潮位(名古屋港)

資料：名古屋港予測潮位 気象庁HP



■調査方法

1. 調査項目：定点観測の項目(通常の項目)
2. 記録様式：定点観測の記録表を利用してください。

泡の量について

「7.泡の発生」で「①泡が川底からわいてくる」と答えられた方は、「泡の量」を追加して観測してください。評価は以下の4段階(①～④)でしてください。この結果は、「9.その他」のコメント欄に記載してください。記入例…「泡の量：②」など

①よく見ると泡が確認できる、②断続的ではないが泡が確認できる、③目で追える程度の量だが断続的に泡が確認できる、④目で追えないほど多くの泡が断続的に確認できる

(お願い) カメラ・スマートフォンをお持ちの方は、写真・動画(30秒程度まで)での記録もお願いします。
送り先：2010@horikawa1000nin.jp

■主な着目点 船が移動すると…

水域が攪拌されます。これによって川底の泥(以下、ヘドロ)が巻き上がり、堀川の水が濃い灰色に濁ることがあります。また、ヘドロ中にメタンや硫化水素などの泡がある場合は、巻き上げられたヘドロとともに泡が水面に浮かび上がることがあります。この時、においの原因物質が大気に揮散して、水の汚れの印象が悪くなる場合があります。

定期的に船が運航されると…

定期的に水域が攪拌されます。ヘドロの巻き上げとともに、ヘドロ中のメタンや硫化水素などの泡も定期的に開放され、常時のヘドロ中の泡の量は減少すると考えられます。さらに長期の定期運航が実現すると、水域が継続的に攪拌されることで、川底に酸素が供給され続けます。これによって少しずつですが川底の状態が改善(ヘドロ化が抑制)され、水質も改善すると考えられます。



～平成22年10月8日 調査隊からの報告～
「ナゴヤ堀川・歴史観光クルーズ(平成22年10月1日～24日)」がはじまり、錦橋は船が頻繁に通過しています。船が通過してヘドロが巻き上がった状態になり、透視度が60cm程度でしたが、ヘドロの臭いはしませんでした。船の運航が繰り返されることで、河床のヘドロの臭いに変化？

船の定期運航による水質改善に期待



ヘドロの巻き上げ
川底からの泡

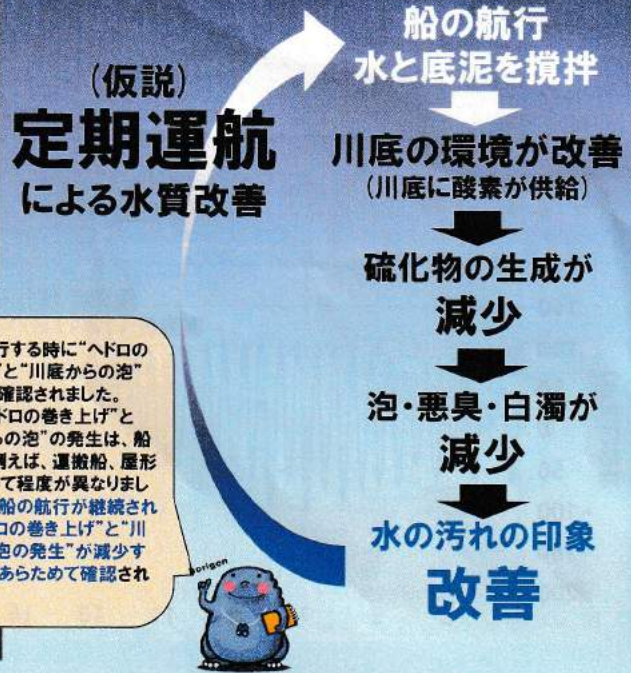
平成29年12月7日 納屋橋



約1箇月後
平成30年1月10日 錦橋

船が航行する時に“ヘドロの巻き上げ”と“川底からの泡”の発生が確認されました。この“ヘドロの巻き上げ”と“川底からの泡”の発生は、船の形状(例えば、運搬船、屋形船)によって程度が異なりました。また、船の航行が継続されると“ヘドロの巻き上げ”と“川底からの泡の発生”が減少することも、あらかじめ確認されました。

水質改善の新たな視点



(仮説) 定期運航による水質改善のイメージ

船の運航頻度が高くなると川底の環境が改善する

